

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	66%	自校A B層の割合	66%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	64%	自校A B層の割合	65.4%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「一之江学び方スタンダード」の取組を全学級の経営の基盤とし、学級や学年の違いや、専科の授業であっても、学校として揺らぎのない指導を実施する。 毎時間、ねらいと振り返りをセットにした授業を実施し、児童に学びを実感させるとともに、問題解決的な学習を重視し、思考力や判断力を育成する。 1人1台端末の効果的な活用を通じた授業改善を確実に進める。 校内研究と関連付け、ICTの活用を通して指導力の向上につなげる。 ハンドサインを活用するなどして児童全員の学習参加を促す。 教科担任制については、3年生以上の全学級で教師の専門性を生かした授業を工夫して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「一之江学び方スタンダード」の取組を通して学びに向かう環境を整え、基礎・基本の定着と学習意欲の向上を図る。 「一之江タイム」として、5分程度の習熟の時間を授業の中で取り、基礎・基本の確実な定着につなげる。 GIGAスクール構想の趣旨に即し、ICTを効果的に活用した授業を全教科等で実施する。 テスト等を通じた知識の定着の確認の他、授業での子供の発言や態度、ノートやタブレット等に収めた学習の記録（スタディオログ）などを通して、児童一人一人の学びを確実に把握し評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を効果的に活用するとともに、学校の学習と家庭の学習の一体化を図る授業の工夫を積極的に行う。 「江戸川っ子study week」と関連付け、家庭学習として、学年×10分+10分の学習課題を毎月出し、電子ドリルの活用を促進する。 「SNS東京ノート」の活用や、「家庭ルール」の作成、実施、振り返りを通して、家庭と連携した情報モラル教育に取り組む。 朝読書や読書の時間を確保するとともに、学校応援団（本よみ隊）と連携した学校図書館の環境整備や読み聞かせ活動の充実などを通して、児童の読書への意欲を喚起し、主体的な読書活動を推進する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解を指導の基盤とし、信頼関係を構築しながら毎日の指導に当たる。 児童の発言や態度、ノートやタブレットの学習記録を基に一人一人の学習状況を把握し適切な手立てを講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から個々の学習の定着状況の把握に努める。その上で、電子ドリル等を活用し、一人一人の学びに適した課題に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 放課後補習教室の担当者が中心となり、参加児童の学習状況に応じて、担任と講師が連絡を取り合い、効果的な学習となるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を効果的に活用し、学校の学習と家庭の学習の一体化を図る授業の工夫を積極的に行う。 「江戸川っ子study week」と関連付け、家庭学習における電子ドリルの活用を促進する。 学期に一度、2週間の読書週間を設定し、全児童が読書紹介カードを作成し、おすすめ図書を紹介し合う交流活動を実施する。また、長期休業には、「読書科コンクール」の取組を推進するなどして読書の習慣化を図る。
成果指標	R5年度全国学力状況調査 国語の、平均正答率は73%で、D層が少なく、全体の底上げができています。算数でも平均正答率が70%と高く、ほとんどの領域で、区・都・全国の平均を上回っていた。	R5ベーシックドリル C問題の平均が60.2%であったことを踏まえ、R6の目標を70%とする。	R5学校評価の保護者アンケートで「お子さんは、毎日家庭学習に取り組んでいますか？」という設問で、前回よりも肯定的な評価が低下し、約77%であったことを踏まえ、R6年度の目標を80%とする。